

# 静岡県内勤労者の仕事と生活意識調査(第14回)

【1000人を超える静岡県内勤労者から回答】

●調査時期/2022年11月 ●回答者総数/1236名(男618名、女618名) ●調査方法/インターネット調査  
静岡県内在住の勤労者約1000人を対象としたWEB調査。2016年5月の初回以来、年2回定期的に実施、  
2022年11月の今回は第14回目の調査となった。

## ■性別

男性	女性
618	618
50.0%	50.0%

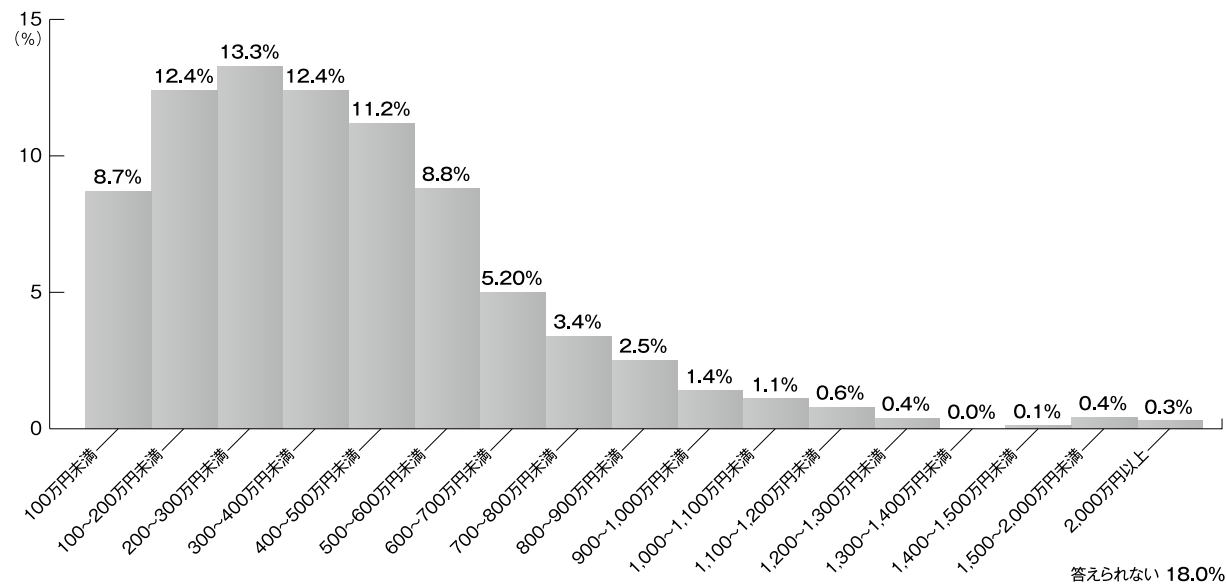
## ■年齢

20歳~29歳	30歳~39歳	40歳~49歳	50歳~59歳	60歳以上
122	256	356	389	113
9.9%	20.7%	28.8%	31.5%	9.1%

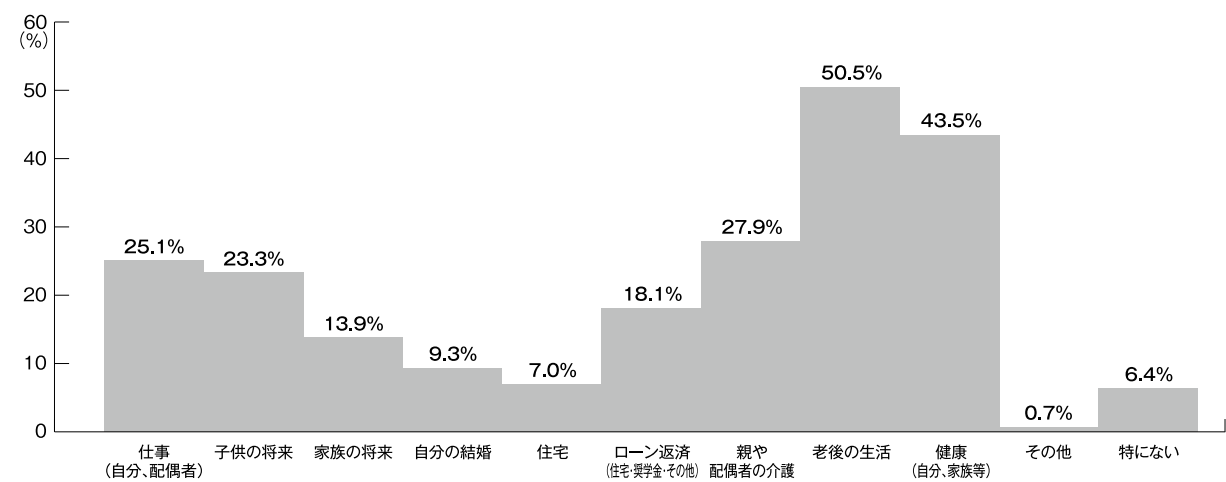
## ■雇用形態

正規社員	非正規社員
781	433
64.3%	35.7%

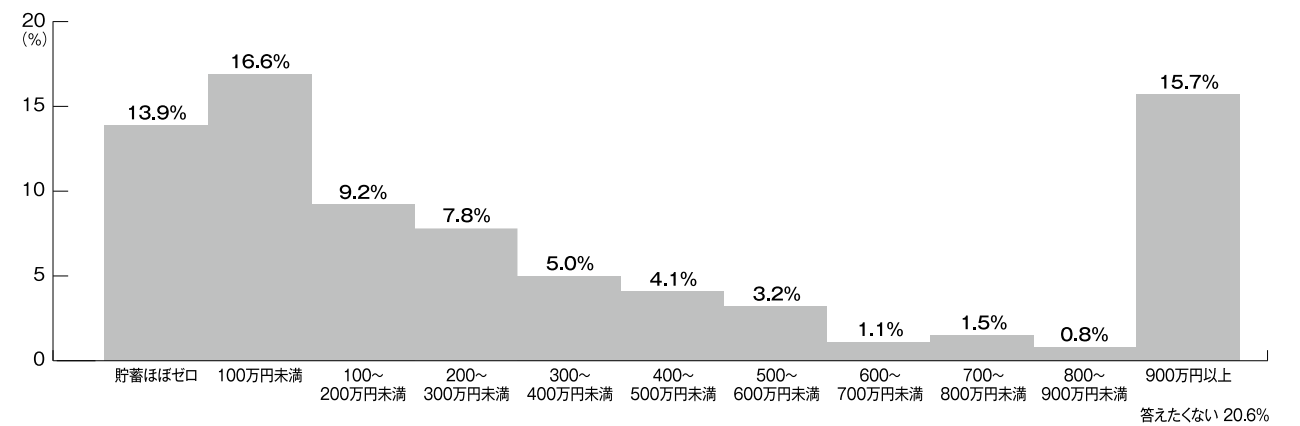
## ■本人の年収



## ■現在思う将来の不安 (複数回答/3つまで)

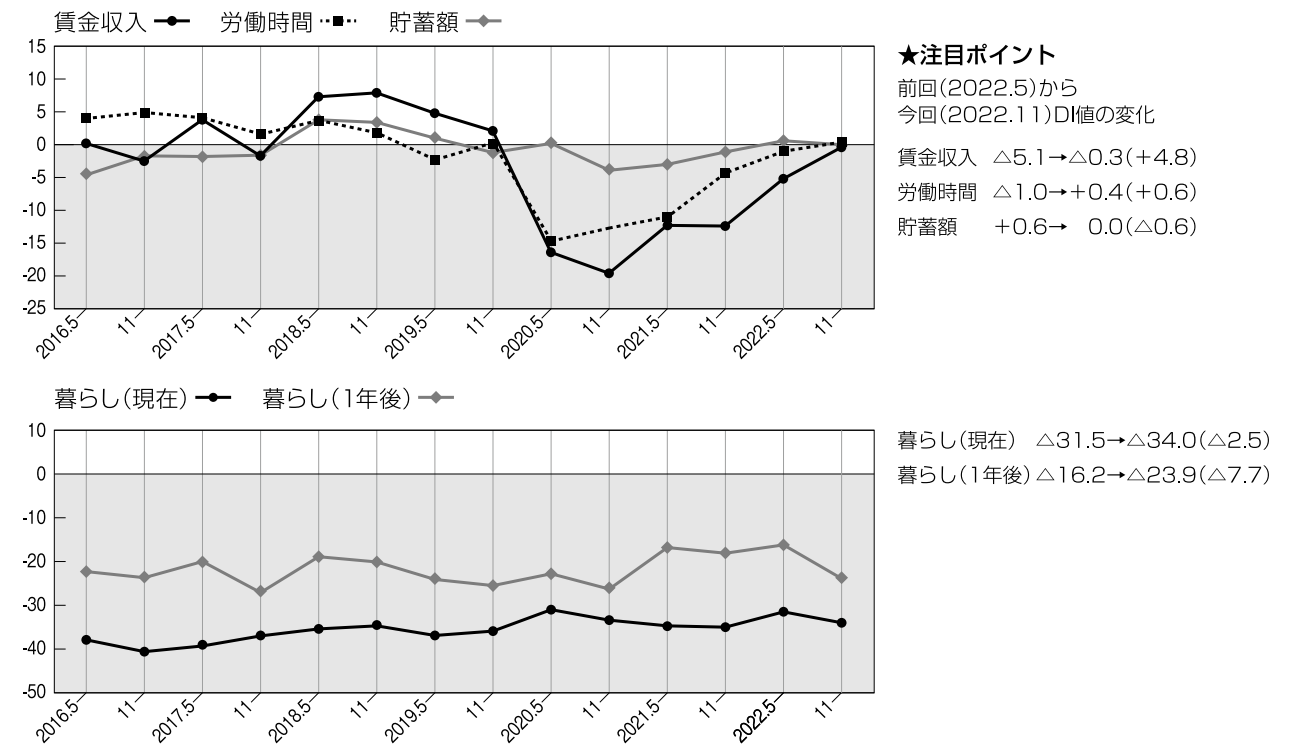


## ■貯蓄額



## ■勤労者DI-Diffusion Index 選択比率の差から動向を把握するための指標

「賃金収入」「貯蓄額」: 1年前と比べて「増えた」・「変わらない」・「減った」  
「労働時間」: 1年前と比べて「長くなった」・「変わらない」・「短くなった」  
「暮らし(現在)」: 「余裕がある」・「普通」・「厳しい」  
「暮らし(1年後)」: 「ゆとりがでる」・「変わらない」・「苦しくなる」・「わからない」



## 今回調査の注目ポイント

- 「現在思う将来の不安」についての質問で、「老後の生活」が最も高く、今回も50%を超えた(50.5%)。2位は「自分や家族の健康」で43.5%、この2項目は初回調査以来、常に上位となっている。
- 「賃金収入」のDI値はコロナ禍初期の第9回(2020年6月)に大きく落ち込み( $\Delta 16.3$ )、さらに第10回(2020.11)で $\Delta 19.5$ まで下がったが、その後少しずつ持ち直し、今回の調査では $\Delta 0.3$ まで上昇している。(12回: $\Delta 12.3$ 、13回: $\Delta 5.1$ 、コロナ禍直前の8回は $+2.2$ )。
- 「労働時間」もコロナ禍初期の第9回に大きく落ち込んだが( $\Delta 14.7$ )、その後少しずつ持ち直し(長時間化の傾向)、今回の調査では $+0.4$ となった。労働時間のDI値がプラスとなるのはコロナ禍前の第8回(2019.11: $+0.3$ )以来である。
- 「暮らし(現在)」のDI値は、コロナ禍前後で大きな変化はみられない。第10回(2020.11)以降続いた悪化傾向は前回(2022.5)改善したが、今回は再び悪化している。
- 「暮らし(1年後)」は第11回(2021.5)の調査で $\Delta 16.8$ となり、第10回の $\Delta 26.3$ から大きく改善し、その後2回の調査で横ばい傾向が続いたが、今回の調査では再び $\Delta 23.9$ まで悪化している。
- 労働時間が持ち直し、賃金収入にも増加の傾向がみられるが、2022年来の物価上昇を踏まえ、現状の暮らしは厳しく、今後の賃金上昇への期待はあるものの、将来的な暮らしの改善はまだ見通せない状況にある。